

科目名	デッサン1 (卒業必修)				
授業形態	演習	学年	1		
開講時期	2021年度 前期	単位数	2		
担当教員	青山 ひろゆき				
内容および計画	<p>グラフィックレコーディングに代表されるように多様な場面でデッサン力は有効なツールとなります。そのため、本授業では、デッサン力を高め、自己のイメージを絵画的に伝える基礎能力を育みます。</p> <p>1～3週は、描く対象の魅力を探究することからはじまり、観察の基礎を学び描きます。4～6週は、光と影の観察によって表現できる立体感や色調の変化を丁寧に描画することで生まれる空間表現を学び描きます。7～11週は、触覚的な質感の描き分けやモノの塊を感じる量感、そして前後関係の表現方法を学び描きます。12～15週は、画面全体の構成や大小・粗密の対比を学び自由な表現を志向します。これら多様な角度の課題を設定し、総合的にデッサン力を高めます。</p> <p>※「その他」に記載された準備物を演習初回に持参してください。</p>				
1	デッサン概論、イメージと現実の差異				
2	モノの魅力「手のデッサン」				
3	モノの魅力「手のデッサン」				
4	空間と色調「紙のデッサン」				
5	空間と色調「紙のデッサン」/学生間講評（5限目）				
6	量感と質感「顔のデッサン」				
7	量感と質感「顔のデッサン」				
8	量感と質感「顔のデッサン」/講評会（5限目）				
9	静物デッサン（3つ以上のモチーフを構成し描く）				
10	静物デッサン（3つ以上のモチーフを構成し描く）				
11	静物デッサン（3つ以上のモチーフを構成し描く）/学生間講評（5限目）				
12	構成デッサン（テーマ設定を行い、8枚の写真を用いて制作を行う）				
13	構成デッサン（テーマ設定を行い、8枚の写真を用いて制作を行う）				
14	構成デッサン（テーマ設定を行い、8枚の写真を用いて制作を行う）				
15	最終講評				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
使用しない					
参考書	使用しない				
成績評価					
	評価方法			割合(%)	
	授業姿勢・・・授業準備や課題ごとの到達目標を理解し制作を進めることができる。			30	
	プレゼンテーション・・・学生間講評及び講評において的確に自己の考えを述べることができる。			20	
	作品・・・5課題のデッサン			50	

<b>学習到達目標</b>	1、対象を観察し、形態・質・空間を捉え描くことができる。 2、制作に粘り強く取り組み、能動的に試行することができている。 3、制作での気づきや試行を言語化できる。
<b>先修条件</b>	
<b>実務経験</b>	実務経験あり?高等学校での美術教諭を経て大学での美術全般の指導経験がある。絵画からインスタレーション、そして企画運営などを美術における広い専門知識を有しており、「デッサン1」を通して複眼的な指導が行える。 青山 ひろゆき プロフィール, <a href="https://www.tuad.ac.jp/teacher_info/aoyama-hiroyuki/">https://www.tuad.ac.jp/teacher_info/aoyama-hiroyuki/</a>
<b>その他</b>	デッサン用具一式： ・スケッチブック（6Fサイズ） ・鉛筆（4H、2H、HB、2B、4B、）各1本以上 ・消し具（ねり消し） ・カッターナイフ（1本） ・ティッシュ（ポケットティッシュ）